地区の景観形成ガイドライン導出におけるプロセスの提案
ー生活・生業と温泉資源における文化的景観を対象としてー

＊大分大学大学院工学研究科博士前期課程
＊＊大分大学工学部福祉環境工学科・助教授 博士（工学）
＊＊＊大分大学工学部福祉環境工学科・教授 工学博士
姫野由香＊＊　佐藤誠治＊＊＊　○松本　彩花＊　森下　泰敬＊

○ 研究の背景と目的

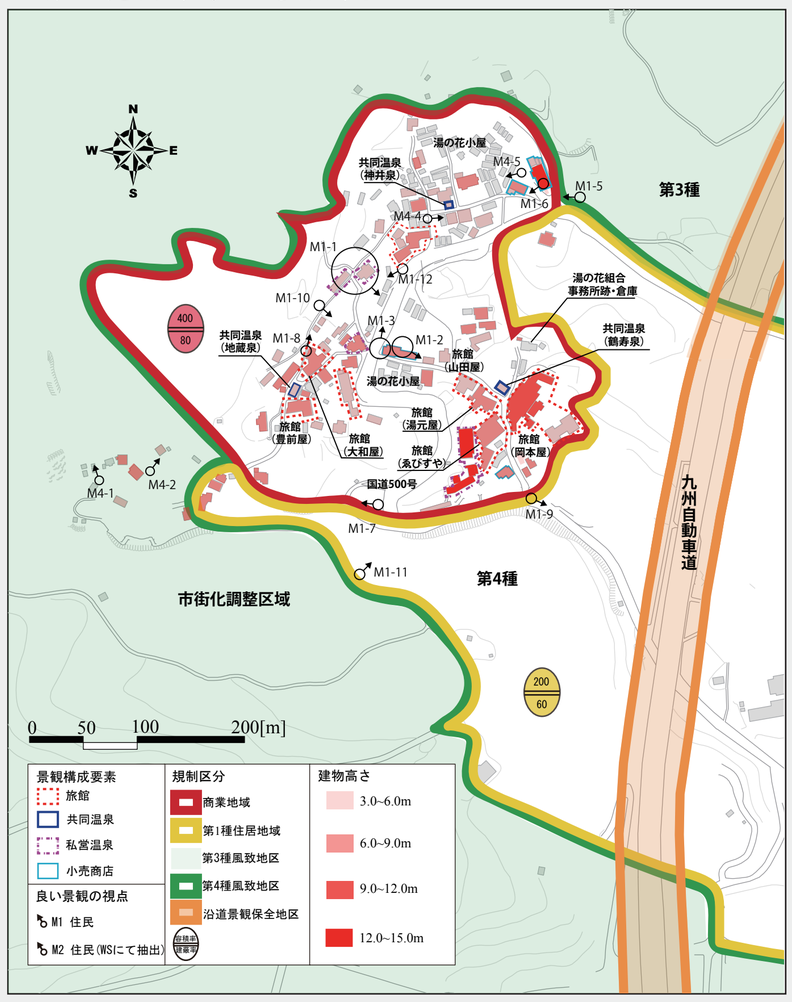
近年、大分県別府市の鉄輪･明礬温泉地区では、世界的にも希有な「湯けむり景観」を「重要文化的景観」として選定し、後世に残すべき景観として、一体的に保護しようと取り組みが進められている。さらに2011年には、別府市明礬温泉地区を対象とした重点景観計画の策定を目指しており、文化的景観の特性と既存規制の状況を再度見直している。

さらに、文化的景観の特性が失われないようこの地区の「眺望景観」や「まちなみ景観」に大きく影響を及ぼす可能性がある項目として、現況の建築物の「高さ」、「形態意匠」等の景観の特性を整理する。それらの情報と手順を参考に、各地域が、自らの地区の景観上の特性や、課題を確認することができるチェックシートを作成し、景観形成ガイドライン策定のための手順を提案することを目的とする。これにより住民主体の景観維持･保全活動が積極的に行われる手掛かりとなること目指す。

○ 現況把握

地区の「眺望景観」や「まちなみ景観」に大きく影響を及ぼす可能性がある項目として、現況の建築物の「高さ」、「形態意匠」等の景観の特性の整理を行った。

■既存の規制誘導 ・ 建物高さ



■屋根形状の棟数・割合

屋根形状	切妻		寄棟		入母屋		宝形		陸		片流れ		小計	
	棟数	割合(%)	棟数	割合(%)	棟数	割合(%)	棟数	割合(%)	棟数	割合(%)	棟数	割合(%)	棟数	割合(%)
私営温泉	7	3.98	3	1.70	1	0.57	0	0.00	0	0.00	2	1.14	13	7.39
共同温泉	3	1.70	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	3	1.70
旅館	39	22.16	7	3.98	0	0.00	0	0.00	1	0.57	12	6.82	59	33.52
小売商店	10	5.68	1	0.57	1	0.57	0	0.00	0	0.00	0	0.00	12	6.82
住宅等	55	31.25	12	6.82	8	4.55	1	0.57	3	1.70	10	5.68	89	50.57
合計	114	64.77	23	13.07	10	5.68	1	0.57	4	2.27	24	13.64	176	100.00

現状の規制誘導では、これまでこの地区にはなかった「高さ」、「形態意匠」の建築物等が建設される可能性があるということが現状調査からわかった。

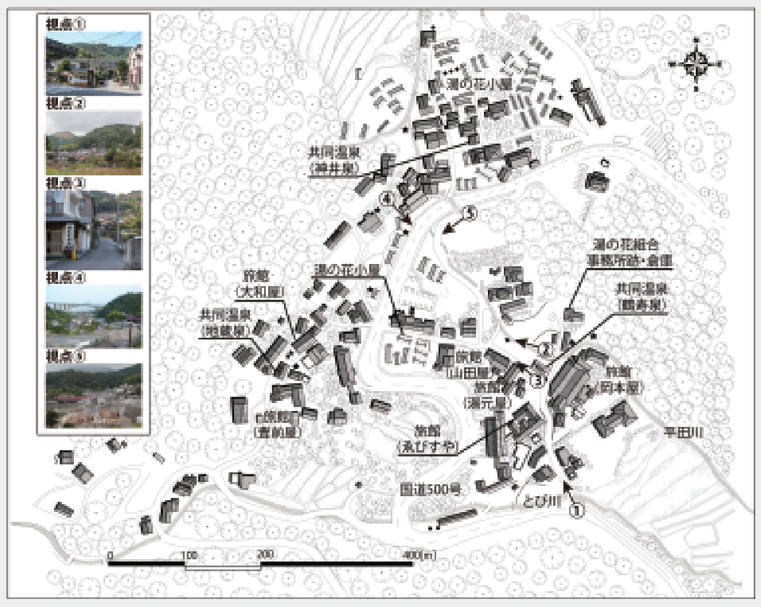
○ 住民による景観チェックと課題の整理

住民を対象に地区の景観の危険性や課題を共有し、この地区の景観の方針を導出するため、再度ワークショップを実施した。その際、住民理解を円滑にするため、モンタージュ写真を用意した。

■モンタージュ写真の変化内容

視点番号	視距離	仰角・俯角	モンタージュ項目	詳細
①	近景	仰角	建物の高さ	旅館(2件)：最高高さ15m（第4種風致地区）へ変更
②	遠景	仰角	建物の色彩	写真に写り込む建築物の色彩を鉄輪温泉地区色彩基準色見本の「まちなみ景観形成地区」の範囲内で変更
③	近景	仰角	建物の色彩	画像に写り込む建築物の色彩を鉄輪温泉地区色彩基準色見本の「まちなみ景観形成地区」の範囲内で変更
④	遠景	俯角	建物の高さ	旅館(2件)：最高高さ15m（第4種風致地区）へ変更
⑤	遠景	水平	建物の高さ	商店、旅館：最高高さ15m（第4種風致地区）へ変更
			建物の色彩	写真に写り込む建築物の色彩を鉄輪温泉地区色彩基準色見本の「まちなみ景観形成地区」の範囲内で変更

■屋根伏せ図・モンタージュ視点



■モンタージュ写真の例

■明礬温泉地区に関する景観についてのご意見

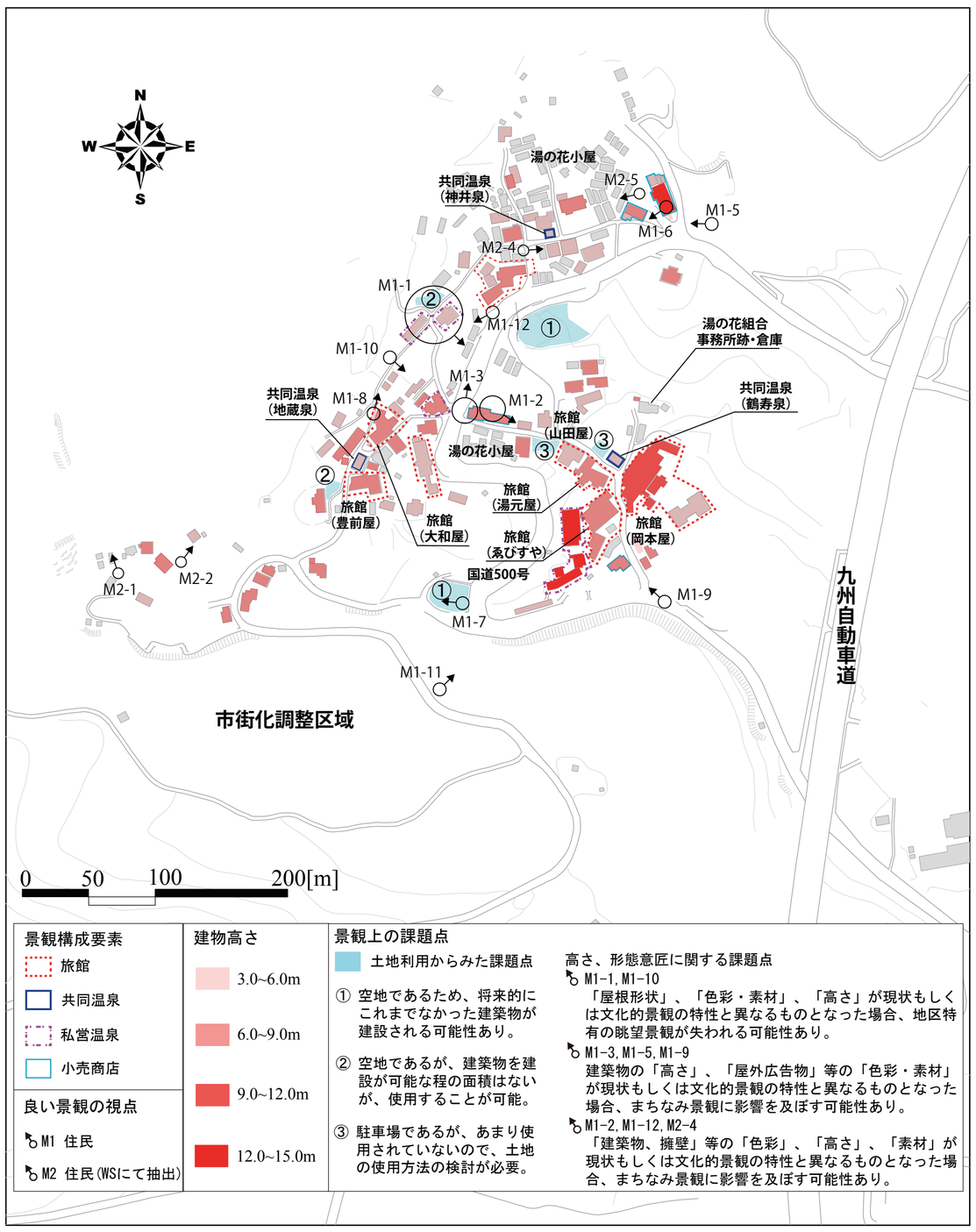
	カテゴリー	要素	ご意見
景観	建築物	高さ	地質的に3,4F建ての建築物が建つことはないが、今後建つ可能性はあるのではないか。
			高さ制限がなければ、高層建築物が建つ恐れがあるのではないか。
			1F建ての建築物の方が良い。
		壁面素材	白漆喰が良い。
		色彩	年齢によって好む色が違うため、同じ色を見ても印象が異なってくるのではないか。
			色についてはルールの検討をするべきだ。
	工作物	別府石の石垣	石垣が独特である。
	土地	空地	既存の住宅は高さ・形態・意匠等が変化することはないが、土地所有者が変化した場合、どのような建築物が建つかわからない。
			外部の方に土地を売り、景観上問題のある建築物が建ってしまっているということが、実際に起きているということに関して問題視している。
			旅館経営をしている住民たちは収入があるのでこの地区で生活し続けることができるが、この地区の住民であっても他の地区に働きに出ているような若者たちは、この地区から離れている。したがって、地権者に後継者がいないため将来的に空地が増加する恐れがある。
			住んでる人も建築物も激減したため、空地が増加したという印象を受ける。
	地獄釜	地獄釜	昔は地スコンロの代わりに地獄釜を生活に利用していたため数が多かったが、現在は減少している。
	道路	国道500号	昔は細くて通れなかったが、道の構成に変化はない。
	その他	明礬大橋	現在はこの橋があることに馴れ、問題視していない。
		生活・生業	明礬温泉地区は、住む場所ではなく仕事場になりつつある。
		範囲	重点計画の計画区域をもっと広い範囲で策定して欲しい。
その他	温泉	泉源	湧出量等を知りたい。
	自然	硫黄	電化製品や配管が硫黄でさびる。

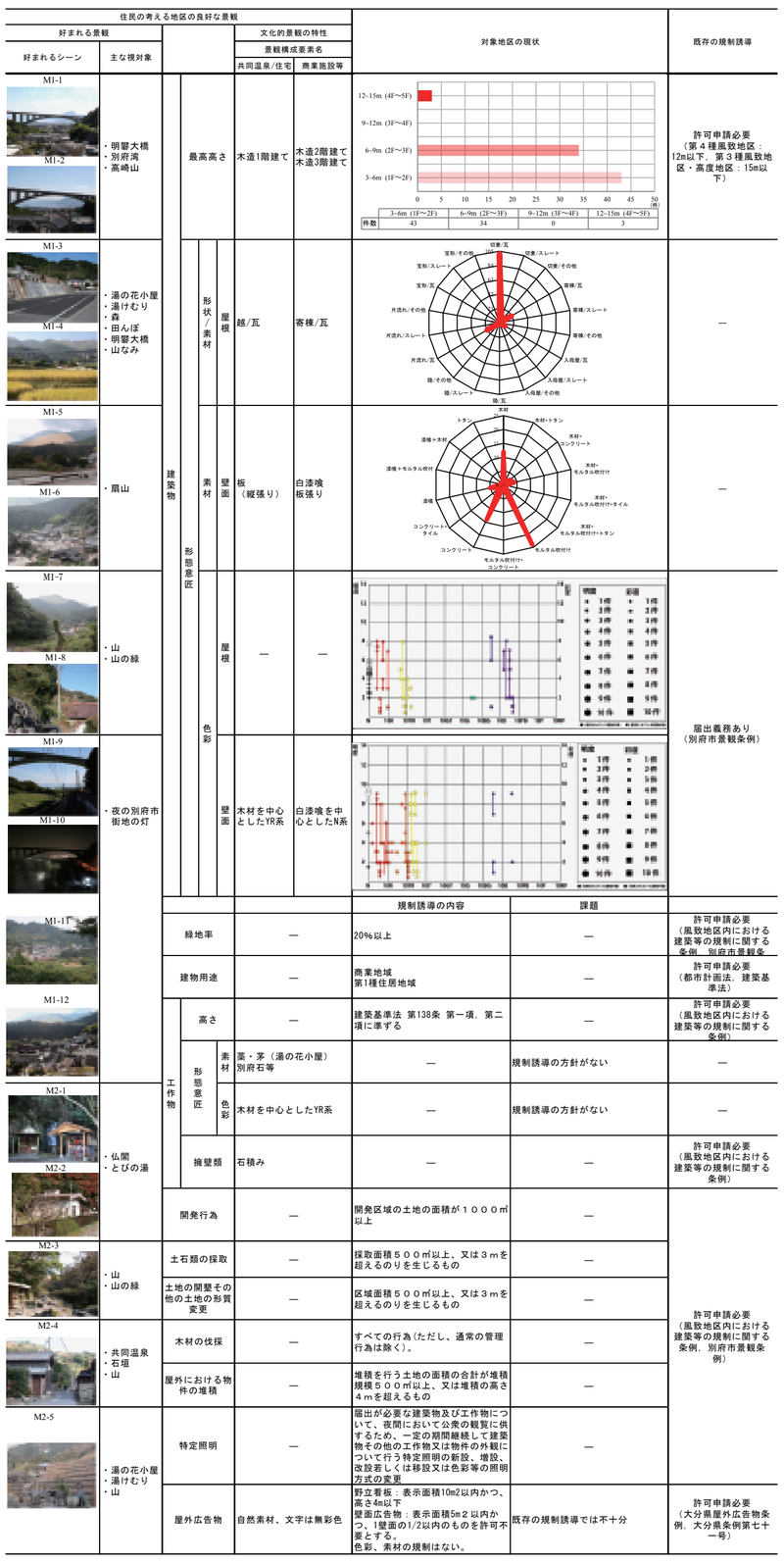
ワークショップにより、この地区の景観の危険性や課題を住民と共有し、景観についての意見を抽出した。建築物の「高さ」や「形態意匠」についての意見以外に、空地に関する意見が多く、今後検討する必要のある課題である。

これらの意見を参考に住民による景観維持・保全活動を援助できるような景観に関する「マップ」や「チェックシート」の作成を行う。

○ 景観マップ

1）地区内のどの位置に如何なる課題がどこに存在するのか、
2）「良い景観」が望むことができる視点はどの位置に存在し、それを維持するために考えられる課題、
3）2）に含まれる景観の要素はどこに分布しているのかを整理できるようにした。





○ 景観チェックシート

住民の考える「良好な景観」と「主な視対象」を挙げ、現状の規制誘導で「良好景観」の維持・保全が可能であるのかに関す確認することができるチェックシートを作成した。

これにより、住民による景観維持・保全活動を支援する一つの手順を導出した。

○ 総括と今後の課題

住民による景観に関する課題整理を支援するために、現況調査で明らかにした情報と住民意見を勘案した地区景観の特性や課題を確認することができる景観マップと景観チェックシートを作成した。さらに、文化的景観の特性を維持するための具体的な方針をチェックシートにより提案できた。この２つを作成することで、景観形成ガイドライン策定のための一つの手順を提案することができた。一方住民によるマップの作成は可能であるものの、マップに示した内容をまとめ、チェックシートに反映する過程に工夫が必要であると考えている。また、チェックシートに含まれるチェック項目や用語がわかりにくく作成が容易ではないことも課題としてあげられる。住民による景観維持・保全活動の向上をはかるために、今後は、表現の工夫や建築物等に関する調査結果の整理方法の検討が必要である。